

ひきこもり支援を学ぶ

府市町村保健師協議会南部研修会



府市町村保健師協議会南部研修会は、1月12日（火）、府国保連合会で開催され、37名の保健師が集まった。西川会長による開会挨拶の後、来賓として川野府健康福祉部健康対策課長が挨拶した。

向日市の藪内保健師が「2歳児教室の取り組み」について、和束町の吉井保健師が「子育てクッキング教室の取り組み」について、南山城村の下村保健師が「母子健全発達支援の取り組み～すくすくメニュー教室～」について実践報告した。それぞれの報告に対して質疑応答もあり、また、京都大学医学部公衆衛生学教授の中原顧問は講評において健診の意義を説明した。



府青少年課の新井弘徳主任は「地域に根付いた訪問活動を考える～チーム絆の活動を通して～」と題して講演を行った。青少年のひきこもり問題について説明し、支援事業及び支援団体の紹介を行う中で、支援上のポイントや課題を示した。

実践報告及び講演の後にそれぞれグループワークを行い、参加者はそれぞれの市町村における状況等を意見交換する中で学びを深めた。